

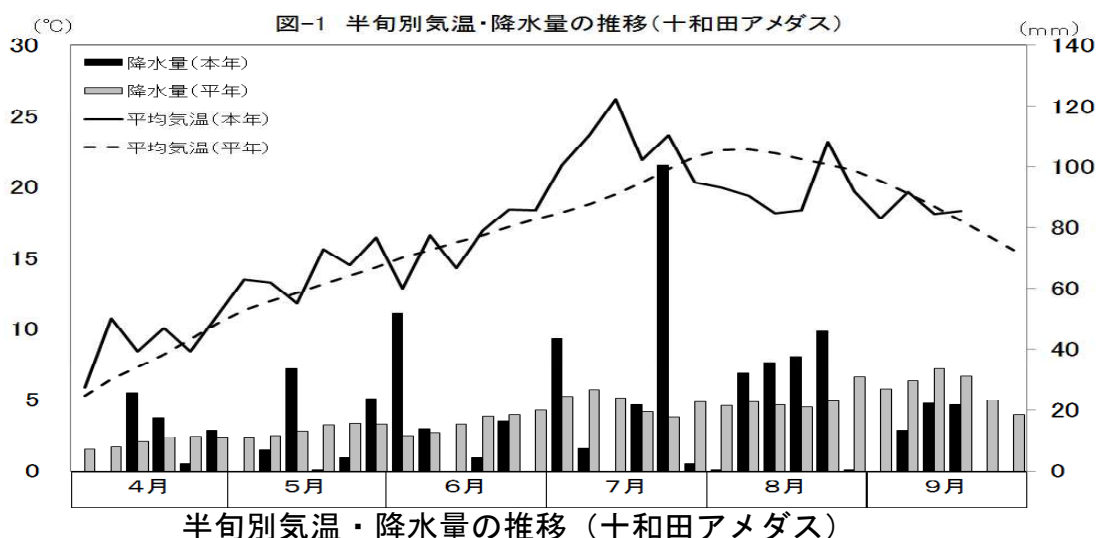
上北農業生産情報 第6号

平成29年9月28日
「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

水稲の適期刈取と作業の安全に努めましょう！

- ・ 刈遅れにならないよう計画的に収穫を進めよう。
- ・ 胴割米の発生防止に向け、計画的な刈取りと適正な乾燥調製に努めよう。
- ・ コンバイン等による農作業事故に十分気をつけよう。

気象



〈8月〉

平均気温は、上・中旬は平年を下回り、下旬は並となった。降水量は、中旬に雨が続き、月合計は平年を上回った。日照時間は、第2半旬から第4半旬まで低温、日照不足が続き、期間をとおして平年を下回った。

8月の気象(十和田アメダス)

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	19.7	22.6	23.3	27.4	17.1	18.8	31.2	49.6	32.5	44.1
中旬	18.3	22.2	19.7	26.9	17.3	18.4	0.0	46.6	73.0	42.6
下旬	21.3	21.4	26.3	26.1	16.4	17.3	50.9	52.4	46.5	53.5

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計。

〈9月〉

上旬は、平均気温は平年より1.3℃低く、日照時間は上回り、降水量は下回った。中旬は、平均気温は平年並で、日照時間と降水量はともに下回った。

9月中旬までの気象(十和田アメダス)

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	18.7	20.0	25.0	24.8	12.8	15.8	68.2	43.7	13.5	56.4
中旬	18.2	18.1	23.0	23.2	13.5	13.5	42.9	45.1	43.5	64.6

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計。

東北地方 1か月予報(9月23日から10月22日までの天候見通し)

平成29年9月21日 仙台管区气象台 発表

期間の前半は気温の変動が大きく、2週目を中心に気温がかなり低くなる可能性があります。

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、低い確率70%です。

水 稲

〈生育状況〉

- 1 9月1日現在の「まっしぐら」の生育は、稈長が74.9cm(平年比101%)、穂長が17.9cm(平年比101%)、 m^2 当たり穂数が373本(平年比102%)であった。
- 2 籾数(暫定値)は、1穂籾数が84.6粒/本(平年比103%)、 m^2 当たり籾数が31,400粒(平年比105%)であった。
- 3 9月1日現在の登熟歩合は10.6%で平年を32.3%ポイント下回ったが、9月15日現在では61.0%と登熟は順調に進んでいる。

〈今後の作業〉

- 1 適期収穫
 - ア 刈取適期の目安となる積算気温 $960^{\circ}C$ 到達日は、出穂期が8月5日のほ場では9月25日頃、出穂期が8月10日のほ場では10月1日頃になると見込まれる。刈取適期の晩限である $1,200^{\circ}C$ の到達日は、出穂期が8月5日のほ場で10月11日頃、出穂期が8月10日のほ場で10月19日頃になると見込まれる。
 - イ 本年は出穂後の低温により、登熟にバラツキが生じることが予想されるため、例年以上にほ場ごとの登熟状況を見極めて判断する。
 - ウ 個々のほ場の刈取適期は、出穂の早晩や籾数の多少によって異なるので、籾の黄化程度(ほ場全体の籾の90%が黄化した時期、登熟が遅れている場合には70~80%程度黄化した時期。)や籾水分(25~26%程度まで減少した時期)等から総合的に判断する。
 - エ 刈遅れによる茶米や胴割米が発生しないよう適期内に刈取作業を進める。

<刈取適期の目安（十和田アメダス：9月19日以降は平年値使用）>

出穂の早晩 適期の目安	出穂期				
	7月31日	8月5日	8月10日	8月15日	8月20日
適期始(960℃到達日)	9月19日	9月25日	10月1日	10月8日	10月15日
適期終(1,200℃到達日)	10月3日	10月11日	10月19日	10月28日	—

※ 適期終わりの目安は、「まっしぐら」が1,200℃、「つがるロマン」が1,150℃。
「—」は10月末以降。

2 その他留意する点

- ア 適期刈取に支障がないよう、降雨に備え排水対策を徹底する。
- イ 倒伏により品質の低下が予想される場合は、倒伏部分を別刈りする。
- ウ 登熟ムラによる高水分籾や未熟な籾の混入が多い場合は、籾水分18%程度で一旦乾燥を中断し、最低5～6時間以上貯留してから仕上げ乾燥を行う二段乾燥など、水分ムラに配慮した乾燥に努める。
- エ 「良食味・高品質米」生産のため、乾燥調製は適正水分15%を遵守する。
- オ コンバイン等の点検時はエンジン停止。ほ場の出入りや傾斜地の走行は慎重に行うなど農作業事故に十分注意する。

大豆

〈生育状況〉

- 1 生育観測ほの生育は、草丈が平年よりかなり長く、稔実莢数は少ない。
- 2 全域でべと病やウコンノメイガ等の食葉性害虫の食害や立枯性病害が散見されるほか、倒伏しているほ場が多い。

9月10日現在の生育

(品種：おおすず)

調査地	年次	草丈(cm)	稔実莢数(莢/本)
十和田市切田	本年	109.1	32.6
	平年	97.3	39.9
	前年	112.2	41.7

(注) 平年値は平成13～28年の平均値。

〈今後の作業〉

- 1 台風や大雨に備え、滞水しないように明きょ等排水対策を徹底する。
- 2 わい化病株や雑草は汚粒発生の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。
- 3 収穫適期は、コンバイン収穫では、子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時期である。収穫適期に達したら速やかに作業できるよう、早めにコンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- 4 湿害等により生育差がみられる場合は、別刈りするなど、ほ場の状態を見極めて収穫する。また、培土高のムラが大きいほ場や倒伏が見られるほ場では、土による汚粒の発生を防ぐため、無理に地際まで刈り取らない。

小麦

〈今後の作業〉

- 1 紅色雪腐病の被害を予防するため、薬剤による種子消毒を行う。
- 2 明きょや弾丸暗きょ、心土破碎などの排水対策を必ず実施する。
- 3 は種作業は9月25日頃までに終え、越冬前の生育を確保する。
- 4 は種量は10a当たり条播で6～8kg、散播で12～13kgとする。

ながいも

〈生育状況〉

- 1 生育観測ほの生育は、いも長、いも重ともに平年を下回っている。いも径はほぼ平年並で、病害は葉渋病がみられる。
- 2 植付が遅かったほ場や小種子、切りいもを使用したほ場は、不順天候の影響で肥大が遅れている。
- 3 一部のほ場では、台風によりネットが切れるなどがみられる。
- 4 葉渋病、炭疽病、ナガイモコガの発生がみられる。

9月11日現在の生育 (品種：庄司系、1年子芽付き)

調査地	年次	植付日 (月日)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
東北町野田頭	本年	5/16	59.5	552	54.8
	平年	5/16	65.8	770	53.0
	前年	5/12	67.3	869	53.1

注) 平年値は平成18～28年の平均値。

平年、前年値は9月10日調査の数値。

〈今後の作業〉

- 1 葉渋病、ナガイモコガ等を主体とした防除を行う。
- 2 ネット、支柱の補強や明きょなど排水対策を講じる。
- 3 採種ほ場では、秋期もウイルスに感染するので、アブラムシ類の防除を徹底し、発病株は早めに抜き取る。

秋だいこん

〈生育状況〉

- 1 生育観測ほの生育は、は種後の長雨・低温により葉数、根重とも平年を下回っている。
- 2 一般ほ場の生育は、生育観測ほ同様遅れている。

9月11日現在の生育

(品種：夏の翼)

調査地	年次	は種期 (月日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
東北町滝沢平	本年	8/5	28.8	12.0	27.0
	平年	8/8	30.1	13.5	63.6
	前年	8/9	20.0	11.0	16.9

注) 平年値は平成13～28年の平均値、平年、前年値は9月10日調査の数値。

〈今後の作業〉

白さび病(わか病)、アブラムシ類、コナガ等を主体とした防除を行う。

露地ねぎ

〈生育状況〉

- 1 肥大等は順調であったが、台風による強風で葉折れが散見される。
- 2 斑点性病害の他、軟腐病の発生が多い。

〈今後の作業〉

- 1 斑点性病害、さび病、べと病及びネギアザミウマ等を主体とした防除を行う。
- 2 降雨に備え、明きよ等排水対策を講じる。

にんにく

〈今後の作業〉

- 1 ほ場の準備と施肥
 - ア 黒腐菌核病、イモグサレセンチュウ等の病害虫が発生していない排水性良好なほ場を選ぶ。
 - イ 土壌改良資材や堆肥は、土壌診断結果に基づいて施用量を決める。
 - ウ 基肥は、基肥全量体系の場合は窒素成分で10a当たり25kg、追肥体系(追肥量5kg)の場合は20kgを目安とする。
 - エ 排水の劣るほ場に植え付けせざるを得ない場合は、事前の排水対策を行う。
- 2 種子の準備
 - ア 種子用の球は、病害虫の被害や腐敗の無い形が整った5～6片のものを選ぶ。
 - イ りん片重は10～20gを基準とし、大きさ別に3段階程度に選別する。
 - ウ ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・種子りん片選別後は速やかに消毒・風乾して植え付ける。
 - エ イモグサレセンチュウ被害拡大防止のため、種苗として正規の管理・チェックを経ていない種子は絶対に使用しない。

3 植え付け

ア 9月下旬～10月上旬に行う。

イ 植え付ける深さは7cm程度とする。

ごぼう

〈生育状況〉

生育観測ほの生育は、8月の低温、降雨、日照不足の影響により、葉及び葉柄に病害が多発したが、新葉の展開により地上部の生育は回復傾向にあり、一般ほ場も回復傾向にある。

9月11日現在の生育

調査地	品種	年次	は種期 (月日)	草丈 (cm)	生葉数 (枚)
三沢市猫又	柳川理想	本年	5/12	76.0	3.0
		平年	4/28	105.9	3.5
		前年	4/24	94.9	3.8

注) 平年は平成19～28年までの平均値。

平成27年は、収穫期が9月2日であったため、平年値に含まれない。

〈今後の作業〉

試し掘りにより根部の肥大状況を確認して、適期に収穫する。

りんご

〈生育状況〉

十和田市米田地区「ふじ」の9月21日現在における果実肥大(横径)は、前年に比較して106%の8.0cmであった。なお、黒石市(りんご研究所)における果実肥大(横径)は、8.5cmで、平年比102%、前年比105%となっている。

9月21日現在の果実肥大 (横径: cm, %)

調査地	品種	本年	前年	前年比
十和田市米田	ふじ	8.0	7.6	105.8

〈今後の作業〉

1 中生種収穫

黒石市(りんご研究所)の収穫はじめの目安は、トキが9月27日頃、早生ふじが9月28日頃と見込まれるので、自園の果実の状況を確認し、早もぎせず、味をのせて適期収穫する。

2 風害防止対策

台風に備え、防風網の再点検、整備など風害防止対策をしっかりと行う。

牧草

〈生育状況〉

生育はほぼ平年並だが、不順天候により2番草収穫の遅れが、3番草収穫作業の遅れにつながっている。

〈今後の作業〉

- 1 ギンギン等雑草の発生が多いほ場では、除草剤散布を適切に行う。
- 2 最終刈取り後、土壌改良資材や堆肥の散布を行う。

サイレージ用 とうもろこし

〈生育状況〉

茎の太さや草丈については、ほぼ平年並であるが、出穂後の低温により登熟が進まないため、刈取適期（黄熟期）は9月下旬以降と予想される。

〈今後の作業〉

- 1 倒伏・折損が発生した場合、速やかに収穫作業を行う。
- 2 台風等の影響がない場合、刈取適期（黄熟期）を逃がさないよう、ほ場を確認の上、計画的に刈取りを進める。